

学校教育目標	かしこく なかよく たくましく かがやく子の育成
目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校 ・児童が生き生きと活動する学校 ・児童が学ぶ喜びを味わえる学校 ・児童一人ひとりに適切な指導を行う学校 ・安全で、清掃の行き届いた美しい学校・家庭、地域社会から信頼される学校

重点目標	1 「真の学力」の育成をめざす教育の充実 2 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 教職員研修の充実	※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
------	---	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度目標		学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	実施日令和8年2月18日		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。理科も同様 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、学習意欲も高い。 <課題> ○学びの指標をもとにした授業改善を推進する必要がある。 ○自分の考えをより深く新しい価値を創造していくためにも、話す・聞くことをより強く意識した学習を推進していく必要がある。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく授業改善を行う。 ②学びの指標をもとにした授業研究（ICTの活用等）を通して児童のエンジェンシーを育む授業改善を行う。	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができた。(R6:国語76%、算数74%) ②学びの指標の平均値が向上したか。(第1回との比較、市平均との比較) ①児童・教職員アンケートにより学び方の定着度を確保するとともに教室巡回や授業公開で確認する。 ②学校評価における「学習内容の理解」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R6:児童69%、保護者39%)	①国語は74%、算数は70%、理科は70%であった。算数、理科については平均値が5、6%下がった結果となったが、さいたま市、全国の平均値を5~10%上回っているで学力は概ね維持できている。 ②学びの指標は主体的、探究的、ICT、基礎全ての項目において0、1ポイント程向上している。市平均との比較では、ICTについては0、1ポイント低いが、その他については0、0.5ポイント程上回っている。 ①毎日の教室巡回や授業公開において、話す・聞くことを発達段階に適した指導の徹底が学校の共通課題として普段の授業で実践することができていた。 ②今年度の学校評価における「学習内容の理解」の『そう思う』の回答率は児童72%、保護者42%で回答率が共に3%向上した。	A A	①平均値が3%下がった年なので、ほぼ昨年と同様の高い学力が確認できるが、更に授業公開を充実させて教職員の授業力を向上させ、児童の学力を高める。 ②学びの指標アンケートの平均値が高まっているが個々の資質向上が必要である。ICTの効果的な活用の研修と実践を繰り返し、チームで学び合い、資質を高めさせる。 ①普段の授業の中で学びの基礎となる「話す・聞く」力を高めるとともに、目的・相手・場面・方法・評価の5つの言語意識を明確にした単元計画や1時間の授業をデザインする。 ②学習理解については年々高まってきている。知識理解だけでなく、課題意識をもって主体的・対話的で深い学びにより解決していく力を高めていく。	・高学年が離れた校舎にあり、図書館まで遠いことが読書の機会が少なくなる要因の1つであるため、本を近くに置くことも実施してもらいたい。 ・小中学校一緒に図書館であり、小学生も中学生用の本を読むことができることを周知してもらいたい。 ・中学生の読み聞かせを継続していきたい。
2	<現状> ○学校評価の結果から、「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目(97%)、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」(91%)の項目で保護者の高評価を得られている。 <課題> ○児童の問題行動、いじめ、教室に入れない子、不登校等に対し、組織でより効果的にかかわる必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①生徒指導・教育相談部会の行い方(頻度、協議内容等)を見直し、問題行動、いじめ、不登校等に対し、ケース会議を中心として、法に則ったより効果的に関わることのできる体制を作る。 ②サンキッズ相談日(教育相談の日)を定期的に実施する。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、適切な支援を行う。	①学校評価の「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合を向上できたか。(R6:37%) ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の回答率が向上したか。(R6:児童48%、保護者47%) ②サンキッズ相談で面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有・引継ぎされたか。	①学校評価における「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合は42%と向上した。 ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の回答率は62%と向上した。 ②サンキッズ相談日(教育相談の日)の報告書を管理職が毎回確認した。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとは面談や支援の報告ノートで細かく共有することができた。	A	①いじめの定義や対応について、学校だよりや懇談会で保護者に周知するとともに、教職員は共通認識し、組織で適切な対応を行う ②サンキッズ相談日をより周知し、SSW、SC、各種相談機関と連携し、相談者に寄り添った細やかな支援を徹底する。 ③引き継ぎ事項の管理と徹底を特に年度末の学級編制時に管理職も含め複数で確認し、実行する。	・保護者にとって、相談の時間はとても大切である。 ・いじめや生徒指導対応で担任が素早く適切に対応できるように人的フォローをしてもらいたい。
3	<現状> ○「あいさつができること」は学校・保護者・地域共通の願いである。進んであいさつする児童は増えてきたがより浸透させたい。 ○働き方改革も踏まえ、様々な工夫をしながらコロナ以前に近い形で学校行事等を実施することができている。 <課題> ○地域の教育資源を活用した学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに「スクリレ」と学校ホームページを活用して情報の受け取り度を上げる工夫をする必要がある。	・目指す児童の姿を地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①地域の方を主な対象として、学校ホームページの内容や使い方を見直し、地域に発信する情報を分かりやすくする。 ②主体的なあいさつを習慣化するため、児童の声を反映したあいさつ運動(中学校との合同も含む)、スローガン、朝会での呼びかけ等を実践する。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R6:51%) ②学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R6:児童64%、保護者等45%)	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率は62%と大きく向上した。 ②学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率は児童65%、保護者等46%と僅かだが向上した。	A	①学校以外でのあいさつは知っている人にするだけでよい。時や場によってはのあいさつ等の仕方がある。個性や発達段階もあると思う。 ・4月よりもあいさつができるようになった。 ・大人が挨拶をする見本になっていくことが、子どもたちに響く。	
4	<現状> ○安全点検は計画通り確実に実施できている。危機管理体制も改善できている。 ○オープンルームのメリットはあるが、発達段階によって、または個性によって効果的な活用できる工夫が必要である。 <課題> ○オープンルームのメリットはあるものの、発達段階的に集中したいときやプライバシーを確保したいときには課題がある。	・安全・安心な環境づくりと安全に関する指導の充実 ・児童一人ひとりへの細やかな環境整備	①安全点検を実施する際、破損箇所だけでなく死角になる部分やケガに繋がる恐れのある箇所を確認し、迅速に修繕や環境の改善を行う。 ②危機管理(けが発生時の対応、不審者への備え等)を徹底するとともに、適宜、児童への安全に関する指導を行う。	①学校評価における「安全への配慮」の『そう思う』の保護者の回答率が向上したか。(R6:54%) ②不審者対応訓練を実施し、アンケートの「安全指導」の『そう思う』の児童の回答率が90%以上。	①学校評価における「安全への配慮」の『そう思う』の保護者の回答率が62%と向上した。 ②不審者対応訓練は実施したが、学校評価の「安全に配慮している」の『そう思う』の児童の回答率は67%にとどまった。	B	①安全に関しては、引き続き放送やメールを活用して、児童、保護者、地域の方に情報を発信し、見回り等の協力を得るようにする。 また、「solaルーム」オンライン授業等、個に応じた安心して居られる環境を整える。 ②校内研修の継続とげがの防止のための準備運動と安全な環境づくりを徹底する。	・引き続き安全な環境整備と安全指導を行っていくことが大切である。
5	<現状> ○タブレットPCをはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○教職員各自がPlant等を活用して主体的に研修計画を立て目的意識をもって取り組むことができている。 <課題> ○主体的な個別最適な学びと協働学習をさらに推進するための研究、研修を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実	①エバンジェリストを中心に、情報部と連携して、教職員のICT機器の活用能力を向上させる研修を実施する。 ②小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開を実施する。 ③管理職との対話により、主体的な教職員研修(教職員のエンジェンシー育成)を支援する。 ④コーチングの手法をあらゆる場面で実践できる教職員を増やす。(通年)	①エバンジェリストを中心に機器活用研修会を年3回以上実施したか。 ②小中学生が協働した実践を3回以上行ったか。 ③主体的に計画した研修が実施されたか。 ④コーチング研修を実施し、教職員アンケートで全教員の実践を集約する。(12月)	①エバンジェリストを中心にグーグルクラスルーム、オクリンクス、ブックキング、スクリレ、スクベレ、機器管理等の研修会を実施した。 ②あいさつ運動、読み聞かせ、金管・吹奏楽ジョイントコンサート、部活体験を行うことができた。授業参観も小中学校で行うことができた。 ③主体的に計画した自己研修を自己評価シートで確認した。また、校内研修では、「個別最適な学び」についての授業公開を行いながら効率よく実施することができた。 ④年次研修等によってコーチングの理解と実践は広まっている。全教職員のアンケート集約はしなかった。	A	①新しいタブレットになり、アプリも変わるので、DX推進担当を中心に活用研修を継続する。 ②相互理解を深めるためにも、小中合同研修会を継続・発展させる。 ③小中学校が連携して、あいさつ運動や読み聞かせ、金管合同演奏会を継続する。 ④人事評価制度を活用し、当初面談での教職員への研修推奨を行うとともに、各自の自主性をもとに研修に取り組み、自己評価する体制を定着させる。 ※業務量管理と健康確保措置の実施をICTの活用と教職員の協働、保護者・地域の協力により推進する。(教育課程の工夫、業務の仕分け、計画年休等)	・先生方の努力が子どもたちの学力向上に表れている。 ・教職員の研修によりキャリアアップになる。しかし、負担が多くならないように、業務管理と健康管理をすすめてもらいたい。